

平成29年12月26日開催 復元検討委員会での指摘事項

特別史跡名古屋城跡の天守についての調査状況を委員会に報告した。以下の指摘があった。

①戦後都市文化の象徴であるRC（SRC）造天守を解体するにはなお議論を尽くす必要がある。

史資料の豊富さということのみで、名古屋城天守を木造とする考えが正当化できるかどうか検討を要する。

②戦前における城郭建築についての研究と耐火構造の必要性というなかで、RC（SRC）造天守が建設されたわけであるが、前者についての追跡が不十分ではないか。

③建築基準法の変遷についての調査がさらに必要。

34年改正が国宝保存法に指定され、戦災によって焼失したものの再建を適用除外としていると解釈できるか否か、検討が必要。

④石垣の調査を行い、その成果にもとづいて具体的にどのように石垣を保全していくのかを検討しなければならない。方針のみでは議論とまらない。